令和７年１１月１８日
（2025 年）

保護者の皆様へ

吹田市立東佐井寺小学校
校　長　　井澤　清史

令和７年度　全国学力・学習状況調査の分析について

本年度の ４ 月、本校では６年生を対象として「令和７年度全国学力・学習状況調査」を実施し、８月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また、吹田市でも今回実施した調査結果の概要を、吹田市のホームページを通じて公表しております。

なお、この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数・理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった６年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めていきます。また、学校全体として、課題に応じた学力向上につながる指導方法の工夫改善を図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただければと存じます。

１　教科に関する調査の分析

◇国語　本校児童の平均正答率（正答率）は、全国の平均正答率（全国値）をやや上回る結果でした。

《各領域における成果と課題》

話すこと 聞くこと	○　『目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する』問題の正答率は、全国値を上回っていました。 ○　『話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる』問題の正答率は、全国値を上回っていました。 ○　『自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える』問題の正答率は、全国値を下回っていました。
書くこと	○　『目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する』問題の正答率は、全国値とほぼ同じでした。 ○　『図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する』問題の正答率は、全国値とほぼ同じでした。 ○　『書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える』問題の正答率は、全国値を下回っていました。
読むこと	○　『時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える』問題の正答率は、全国値を上回っていました。 ○　『事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する』問題の正答率は、全国値を上回っていました。 ○　『目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける』問題の正答率は、全国値を上回っていました。

言葉の特徴や使い方・我が国の言語文化に関する事項

○『学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う』問題の正答率は、全国値を上回っていました。

○『時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く』問題の正答率は、全国値を下回っていました。

※国語科における成果・課題と今後の改善点について

本校では、「子どもの主体的な学びのある授業づくり」をテーマに、令和５年度は物語文教材の学習、令和６年度は説明文教材の授業研究を進めてきました。さらに今年度は、「子どもたち自身が思いを伝え合い、お互いに高め合う子どもたち」をめざして、授業研究を進めています。その結果、本校の子どもたちの「読む力」は伸長し、また、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力も高まっています。しかし、子どもたちに「書く力」が十分に備わっているというわけではなく、全国学力・学習状況調査では「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える」ことに、課題が見られました。

今後、本校では子どもたちの「書く力」をさらに伸ばしていくために、書いた文章をより良いものとするために自ら推敲を重ねるとともに、説明文を読むだけではなく、自分たちでも説明文を書く学習を行っていきます。また、子どもたちどうしが互いの文章を読み合って文章の構成を考えるというような協働的な学習を行い、児童が主体的に書く力を高められるような学びも進めていきます。このような活動は、国語科だけではなく各教科においても行い、子どもたちの「書く力」をよりいっそう高めていきます。

◇算数　本校児童の平均正答率は、全国値を上回る結果でした

《各領域における成果と課題》

数と計算	○　『示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算する』問題の正答率は、全国値をやや上回っていました。 ○　『小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉える』問題の正答率は、全国値を上回っていました。 ○　『分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述する』問題の正答率は、全国値をやや上回っていました。 ○　『数直線上で、１の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉える』問題の正答率は、全国値を上回っていました。 ○　『異分母の分数の加法の計算をする』問題の正答率は、全国値を上回っていました。
図　形	○　『平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図する』問題の正答率は、全国値を上回っていました。 ○　『角の大きさについて理解する』問題の正答率は、全国値を上回っていました。 ○　『基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する』問題の正答率は、全国値を上回っていました。 ○　『台形の意味や性質について理解する』問題の正答率は、全国値を下回っていました。

変化と関係	○　『伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだす』問題の正答率は、全国値とほぼ同じでした。 ○　『伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する』問題の正答率は、全国値を上回っていました。 ○　『１０％増量の意味を解釈し、増量後の量が増量前の何倍になっているかを表す』問題の正答率は、全国値を下回っていました。
データの活用	○　『棒グラフから、項目間の関係を読み取る』問題の正答率は、全国値をやや上回っていました。 ○　『目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する』問題の正答率は、全国値を下回っていました。 ○　『簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶ』問題の正答率は、全国値を下回っていました。

※算数科における成果・課題と今後の改善点について

本校では、身近な場面から数量の変化に着目させたり、図や式などを用いて話し合ったりする活動を継続して行ってきました。その結果、「数と計算」・「図形」の領域において、全国値を上回る結果が見られました。

しかし、「データの活用」の領域では、目的に応じて適切なグラフを選択して必要な情報を得ることや、表から条件に合った項目を選ぶことに、課題が見られました。また、記述式の問題において正答率が低くなる傾向があり、国語科における成果・課題の項目でも記したように、「書く力」を高める必要性が感じられました。

今後、本校では、①算数の各領域の基礎・基本の定着に重点を置くとともに、②日常の事象について目的に応じて必要なデータを収集し、データの特徴や傾向を捉え考察するなど、統計的に問題を解決するような課題に積極的に取り組んでいきます。

さらに、今年度は、４年生および５年生の算数において少人数指導を行っており、一人ひとりのニーズに応じたきめ細やかな指導を行い、児童の学力の向上を図っていきます。

◇理科　本校児童の平均正答率は、全国値とほぼ同じ結果でした

《各領域における成果と課題》

エネルギーを柱とする領域	○　『電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わる』問題の正答率は、全国値を上回っていました。 ○　『乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いている』問題の正答率は、全国値を上回っていました。 ○　『身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物がある』問題の正答率は、全国値を下回っていました。 ○　『電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現する』問題の正答率は、全国値を下回っていました。

粒子を 柱とする領域	○ 『水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解する』問題の正答率は、全国値をやや上回っていました。 ○ 『水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現する』問題の正答率は、全国値をやや上回っていました。 ○ 『水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現する』問題の正答率は、全国値を下回っていました。 ○ 『水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解する』問題の正答率は、全国値を下回っていました。 ○ 『水は温まると体積が増えるを根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現する』問題の正答率は、全国値をやや下回っていました。
生命を 柱とする領域	○ 『ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いている』問題の正答率は、全国値を上回っていました。 ○ 『レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現する』問題の正答率は、全国値とほぼ同じでした。 ○ 『顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いている』問題の正答率は、全国値を下回っていました。 ○ 『発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現する』問題の正答率は、全国値を下回っていました。
地球を 柱とする領域	○ 『赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現する』問題の正答率は、全国値を上回っていました。 ○ 『赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現する』問題の正答率は、全国値を上回っていました。 ○ 『氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解する』問題の正答率は、全国値を上回っていました。 ○ 『赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果や問題に対するまとめを基に、他の条件での結果を予想して、表現する』問題の正答率は、全国値をやや下回っていました。

※理科における成果・課題と今後の改善点について

本校では、理科の問題に対して、答えがどのようになるかを予想させるとともに、観察や実験を積極的に行うようにしています。その結果、理科全体の平均正答率は、全国値とほぼ同じ結果が見られました。

しかし、観察・実験に関する問題において、「問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現する」ことや、「結果や問題に対するまとめを基に、他の条件での結果を予想して、表現する」こと、「発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現する」ことに課題が見られました。さらに、今回の結果からは、知識（電気を通す物と磁石に引き付けられる物）や技能（顕微鏡の操作）についても、定着が図れていない内容があることがわかりました。

今後は、観察・実験において、教科書に記載されている実験を行うだけではなく、得られた結果や考察から新しく自分で問題を見いだし、その問題を解決する実験方法を考え、その実験を自ら行ってみるというような授業を展開していきます。それとともに、知識・技能の確実な定着を図るために、自らが獲得した知識を他者に伝える活動を行ったり、反復して実験器具を使用する時間を設けたりするような授業を実践していきます。

２　児童質問調査の結果の傾向

※肯定的な回答をした児童の割合とは、「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」のいずれかを回答した児童の合計の割合を示しています。

≪学習および生活環境について≫

質問５	「自分には、よいところがあると思いますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を上回っていました。
質問６	「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を上回っていました。
質問７	「将来の夢や目標を持っていますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値とほぼ同じでした。
質問９	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という項目で肯定的な回答（いけないことだと回答）をした児童の割合は、全国値とほぼ同じでした。
質問１０	「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という項目で肯定的な回答（相談できると回答）をした児童の割合は、全国値を上回っていました。
質問１２	「学校に行くのは楽しいと思いますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値をやや上回っていました。
質問１６	「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を下回っていました。
質問２６	「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事は除く）」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を下回っていました。
質問２７	「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を下回っていました。
質問３５	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値をやや上回っていました。
質問３７	「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値をやや下回っていました。
質問３８	「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれていると思いますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を上回っていました。
質問３９	「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値をやや上回っていました。

≪教科の学習について≫

質問４５	「国語の勉強は好きですか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を下回っていました。
質問４４	「国語の授業の内容はよく分かりますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を下回っていました。
質問５０	「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値をやや下回っていました。
質問５１	「国語の授業で、目的に応じて説明的な文書を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値をやや上回っていました。
質問５３	「算数の勉強は好きですか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を下回っていました。
質問５４	「算数の授業の内容はよく分かりますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値をやや上回っていました。
質問５６	「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を下回っていました。
質問５７	「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を下回っていました。
質問６１	「理科の勉強は好きですか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値をやや下回っていました。
質問６２	「理科の授業の内容はよく分かりますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値をやや上回っていました。
質問６５	「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値をやや上回っていました。
質問６６	「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりできていますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を下回っていました。

３　児童質問調査の結果を受けて

今回の結果を受けて、本校の教育活動において、児童の自己肯定感が高まっていることがわかりました。今後も、教職員が児童の言葉に耳を傾け、また、児童を励まし続けることで、児童が「自分にはよいところがある」、「学校に行くのは楽しい」と思える学校づくりを教職員が一丸となって取り組んでいきます。

しかし、教科の学習に関する結果では、「国語や算数、理科の勉強は好きですか」という質問で、本校児童の肯定的な回答がいずれも全国値を下回っていました。この結果を受け、本校では日々行われる授業が児童にとってわかりやすいものであるとともに、児童が主体的に学習に取り組めるような授業改善を進めていきます。また、各教科の持つ有用性を実感できる授業、身近な問題解決の場面を通して実生活に結び付けて考える授業、自分で学び方を考えるような個別最適化された授業を積極的に行っていき、児童のさらなる学力の向上を支援していきます。そして、子どもたちが「授業が楽しい」と思える授業づくりを行っていきます。

今後とも、本校の教育活動にご支援とご協力をお願いいたします。